

H22補正

国産縫合針の国内シェア拡大と海外展開

(財)にいがた産業創造機構、ケイセイ医科工業(株)、新潟大、自治医科大、新潟県工業技術総合研究所、ケイセイエンジニアリング(株)

性能は良いものの、高い製造コストがシェア拡大のネックに

- 平成20年度地域イノベーション創出研究開発事業において、ケイセイ医科工業を中心とした研究体が開発した高刺通性次世代型縫合針は海外製の世界トップシェア品を凌駕する性能を有している。
- しかし、価格面においては、割高な物となり事業化に向けての大きな課題となっていた。

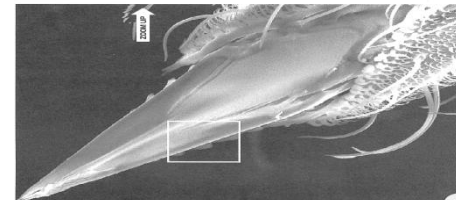
低コスト化を実現するため、高機能な製造装置を開発

- これまで、多くの人手によって実現していた針製造27工程を1つの機械にまとめ、自動化を実現
- 自動化によって、手加工による誤差を除去でき、製品歩留りの大幅な向上の実現、及び、加工精度の向上の実現
- 超精密プレス研削複合機の完成によって、目標であった上述したトップシェア品の約半額となる低コスト化の実現

ケイセイ医科工業(株):高度なものづくり技術を活かした事業展開

国内の約80%が輸入であった糸付縫合針の市場に、医療機器の設計開発で培った技術、及び、薬事知識、市場ニーズの動向を踏まえ、国内展開を実施、また次のステップとしての海外展開を計画中(新潟県燕市、資本金5千万円、従業員数88人)

高刺通性次世代型縫合針



蚊の針をモデルとした設計



高刺通性次世代型縫合針の完成

問題点

× 海外製品に比べ割高

低コスト化技術の開発



超精密プレス研削複合機の開発



次世代型縫合針の高精度化